〔輸血・細胞治療科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

輸血・細胞治療科は、造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性白血病など）に対する化学療法)と細胞治療を診療･研究の柱として平成27年度より病棟が稼働し始めた**新しい診療科**です。

- **がん診療の基本が学べます**：造血器腫瘍の診療に関して、当科では診断から治療導入までのところを主に行っていますので、診断のポイント、エビデンスに基づいた治療法の選択、抗がん剤の使い方およびその副作用への対処など、がん診療の基本を学ぶことができます。また、臨床腫瘍学会の専門医取得のためには造血器腫瘍の症例が必須となっており、この資格の取得を考えている医師にも有用な研修となります。
- **将来他科を専攻希望の医師にも役に立つジェネラルな研修が行えます**：貧血や好中球増多・好中球減少などの血液検査異常値にはどの診療科を専攻していても遭遇します。これらに対しどう対処すればいいかを学ぶことができます。また、血液疾患は全身疾患であるために他の臓器にも病変が及ぶことも多く、全身を診る必要があるため、内科全般的な考え方、全身管理についても学ぶことができます。
- **造血器腫瘍は化学療法で治癒しうる疾患です**：造血器腫瘍は化学療法への感受性が高いため、初回治療によりみるみる腫瘍が縮小し患者さんの状態が改善していくところを経験できます。多くの患者さんについては、入院で初回化学療法を行った後、外来で化学療法を継続することにより治癒を目指すことになります。
- **中心静脈カテーテル挿入等の手技が学べます**：化学療法のレジメンによっては、中心静脈カテーテル挿入が必要です。そのため、中心静脈カテーテル挿入の手技が学べます。その他にも骨髄穿刺、骨髄生検や、1ヶ月に1回の頻度で手術室での大量骨髄採取術を行っています。
- **治療がダイナミックに変化していっている分野です：**造血器腫瘍、特に多発性骨髄腫と悪性リンパ腫に関しては、ここ数年で多数の新規薬剤が登場しており、その治療は大きく変わりつつあります。当科では、これらの新規薬剤を用いて、最新のエビデンスに基づいた治療を行っています。
- **（興味があれば）サイエンスにも触れられます**：輸血・細胞治療センター附属の兵庫医科大学細胞プロセシングセンターでは、臍帯（へそのお）や羊膜から間葉系幹細胞を作成し、これを用いた臨床試験を計画しています。また、輸血・細胞治療センターでは輸血検査に加え、８色フローサイトメトリーを用いた造血器腫瘍に対する最新のモニタリング検査を行っています。興味があればこれらの研修を行うことも可能です。

【内容】

① 一般目標（ＧＩＯ）

血液疾患の診断と治療をベースとして、内科医として必要な基本的知識、スキルを身につけるとともに、細胞治療など最先端の医療にふれる。

② 行動目標（ＳＢＯ）

１． 血液疾患の診断に必要な知識・スキルを習得する

２． 造血器腫瘍（悪性リンパ腫・骨髄腫・白血病など）に対する標準的化学療法を習得する

３． 輸血医療に関連した知識・スキルを習得する

４． 細胞治療に必要な知識・スキルを習得する

③　研修内容（ＬＳ）

１．　骨髄穿刺など血液疾患の診断に必要な手技

２．　中心静脈カテーテル挿入、高カロリー輸液管理

３．　フローサイトメトリー、遺伝子検査など血液疾患の診断に必要な検査

４．　化学療法の標準的レジメン（リンパ腫に対する R-CHOP 療法など）の実施

５．　輸血管理、自己血採血、末梢血幹細胞採取、大量骨髄採取術

６．　間葉系幹細胞を用いた細胞治療

④　教育に関する行事

月　症例カンファレンス、内科合同カンファレンス（第２、４週）

水　フローサイトメトリーのデータ検討会、抄読会

木　骨髄・末梢血塗抹標本の鏡検、病理組織標本の鏡検

金　教授回診、血液疾患/細胞治療ミニレクチャー、大量骨髄採取術（手術室、月１回程度）

⑤ 研修評価（ＥＶ）

研修終了時、研修指導医が達成度を評価する。

指導医等

主任教授：藤盛　好啓（指導責任者）　准教授：山原　研一　講師：吉原　哲

講師（兼任）：岡田　昌也

研修実施責任者

主任教授：藤盛　好啓